

2 中学校 学級活動指導案

- 1 題材 もしも外国から転入生が来たら・・・
内容（2）イ「自己及び他者の個性の理解と尊重」

2 題材設定の理由

埼玉県では全ての市町村に外国人が住んでおり（平成28年6月末現在 法務省在留外国人統計より）、生徒が住む地域でも様々な国の人を見かける。しかし、約半数の外国人はじろじろ見られたり、差別的な事を言われたりするなど、生活の中で人権を大事にされていないことがあると感じている。（平成26年度 埼玉県外国人住民意識調査より 県民生活部 国際課 調べ）

本題材では、日本語が全く分からないまま、フィリピンから日本に来た転入生の作文を扱う。外国人の転入生が、周りの生徒の言動で勇気づけられ、学級に溶け込んでいく作文を読み、アクティビティを通して、生徒一人一人がお互いの文化の違いを尊重できる態度を育成したい。また、東京2020オリンピック・パラリンピックはもとより、在留外国人が増えていることを踏まえ、生徒が多様性の尊重と調和の重要性を認識し、外国人との共生社会の実現について考える契機にしたいと考え、本題材を設定した。

3 指導のねらい

- (1) だれとでも分け隔てなく課題を考えたり、教え合ったりして、協力して解決に向けて取り組もうとする態度を育てる。
- (2) 意見交換により、異なった文化を持った人たちを尊重する多様な考えに触れ、お互いの人権を尊重し合う態度を育てる。

4 評価の観点と評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団生活や生活についての 知識・理解
学級や学年の課題として捉え、解決しようとアクティビティに意欲的に取り組もうとしている。	異なった文化を持った人たちを尊重する多様な考え方に触れ、自分のこれからの生き方について広い視野で考えることができる。	異なった文化の多様性を尊重し、共に生きる道を見出すことが互いにとってよりよく生きることにつながることを理解する。

5 人権教育上のねらい（外国人）

異なった文化を持った人々と共に生きようとする積極的な態度を身に付ける。

6 人権教育上の視点

- (1) 異なった文化を持つ人々への差別や偏見によって起こる痛みや思いを知り、人として差別や偏見を許さない社会を築こうとする態度を養う。 （価値・態度）
- (2) 国際人として自覚を持ち、共生社会の実現を目指し行動できる態度を身に付ける。

(価値・態度)

- (3) 人間関係を調整するための思いやりを持ったコミュニケーションの技能を身に付ける。
(技能)

7 展開の過程

(1) 本時のねらい

多様な価値観があることに気付かせ、文化の多様性を尊重し、積極的に共生しようとする心情や態度を育てる。

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

	活動の内容	・指導上の留意点 ☆目指す生徒の姿 (観点) 【評価方法】	資料等	時間
活動の開始	1 もしも自分が海外に転校することになったら、どんなことが不安か考え発表する。	・外国からの転入生の気持ちを自分事として捉えるよう促す。 ☆本時の活動への参加意欲が高まっている。 (関心・意欲・態度) 【観察】 ◎ものの見方や考え方の違いを受け入れられる受容的な雰囲気を作る。(価値・態度)	ワークシート1	5分
	2 本時の目標を知る。	・活動上の約束や諸注意を確認する。		
もしも外国から転入生が来たら、自分にできることは何か考えよう！				
活動の展開	3 1の活動で話し合ったことを踏まえながら作文を聞き、日本に転入してきた生徒の気持ちを考える。	・導入で考えた自分の気持ちと作文中の「私」の気持ちを重ね合わせながら聞かせる。 ☆相手の気持ちを想像したり、その立場にたって考えたりできる。 (知識・理解) 【観察】	作文	40分
	4 自分の学級に英語も日本語も話せない外国人の転入生が来たことを想定し、転入生が日本の学校に慣れるために自分にできることを考える。	・自分がしてもらいたいことを置き換えて考えるように促す。 ・意見が出ない生徒については教師から助言をし、意見を促す。 [助言例] ○学校生活で一緒にできること ○一緒に生活するために必要なこと [予想される生徒の反応] ○転入生の国の言葉を勉強する ○日本語を教える ○ジェスチャーを使って話しかける ○みんなで遊びに誘う ○スポーツを一緒にする ☆外国からの転入生に対し、文化や価値観の多様性を尊重し、進んで共生しよう	ワークシート1	

	<p>5 転入生が学校に慣れるために私たちができることとその理由を班で話し合う。</p> <p>6 班で話し合ったことを発表をする。</p>	<p>うとする姿勢を身に付けている。 (思考・判断・実践)【観察】</p> <p>◎他の生徒の考えを否定せず、しっかりと聞かせ、自分の考えもしっかり述べることに留意させる。(技能)</p> <p>◎多様な価値観があることに気付かせ、尊重できるようにする。(価値・態度)</p> <p>※アイディア例は「9 予想される各班のアイディア」に記載</p> <p>☆誰とでも分け隔て無く課題を考えたり、教え合ったりするなど、協力して解決に向けて取り組んでいる。 (思考・判断・実践)【観察】</p> <p>・各班の発表に、自分の意見と重ね合わせながら耳を傾けるように促す。</p>	<p>ワークシート1</p> <p>ホワイトボード又はA3用紙マジック</p>	
活動のまとめ	<p>7 教師の話</p> <p>8 振り返りシートに記入し、発表する。</p>	<p>・上記の行動ができるようになるために必要な力は何か、また、そうなりたいと思えるような助言をする。</p> <p>・各個人がしっかりと考えられたことを褒め、更に実践への活動意欲を高めることができるように助言する。</p> <p>・どんなことを心掛けて行動すれば良いのかを記入し、発表させる。</p>	<p>ワークシート2</p>	5分

8 資料 「心を開こう」 出典 人権教育実践報告会発表作文集「はばたき」第34集(埼玉県教育委員会)

9 予想される各班のアイディア

- ジロジロ見ない。
- 言葉が通じないからといって、無視しない。
- こちらからあいさつをしたり、話しかけたりする。
- ジェスチャーを入れながら、話しかける。
- 日本語を教える。
- 困っていたら声をかけ、助ける。
- 知りたいことを教える。
- 校内や地域を案内する。
- 日本のマナーやルールを教える。
- 日本と転入生の国の似たような遊びを探り、それを使って一緒に遊ぶ。
- 日本ならではの文化(食・伝統芸能・年中行事など)を教える。
- 一緒にスポーツをする。
- こちらが知りたいことを教えてもらう。
- 笑ってごまかすことはしない。
- 避けたり遠ざかったりすることはしない。

人権学習ワークシート

年 組 番氏名 ()

1 あなたが、海外に転校することになったら、どんなことが不安ですか？

2 もしも・・・

あなたのクラスに外国から転入生が、やってきました。
日本語も英語も話せません。
早く日本の学校に慣れるようにしてあげたいのですが・・・・・・・・。

3 あなたのできることを考えてみましょう。

4 班で話し合ったこと

私たちができること	その理由

振り返りシート

もしも外国から転入生が来たら・・・

	年 組 番 氏名()			
	はい	少し	あまり	いいえ
1 真剣に取り組めましたか。	4	3	2	1
2 グループの話し合いで、自分の意見を はずかしがらずに言えましたか。	4	3	2	1
3 グループの話し合いで、他の人の意見を 真剣に聞くことができましたか。	4	3	2	1

4 この時間を通して、外国からの転入生を迎える時どんなことが大切だと感じましたか。

心を開こう

小六

三年生の五月に、私はフィリピンから日本に来ました。フィリピンでは、大勢の家族とともに現地語を話し生活をしていたので、全然日本語がわからないまま、A小学校に転校して来たのです。

日本語を話すことができない私は、A小学校へ行く日まで、お母さんといっしょに何度も何度も、「よろしくお願いします。」の言葉を練習しました。その一つの言葉を言うのが、その時の私にとっては、精いっぱいだったのです。

初めて小学校に来た日のことを、今でもよく覚えています。お母さんに連れられて、胸をドキドキさせて校門をくぐりました。私のクラスは三年〇組でした。

〇組の教室に入った時、クラスみんなの目が私をじつと見つめていたので、とてもきん張りました。心臓が高鳴り、張りさけそうな気持ちをおさえて、自己しようかいをしました。そして、最後に、

「よろしくお願いします。」

と、大きな声で、毎日練習してきた言葉を言いました。すると、

「よろしくお願いします。」

と、大きな明るい声が返ってきたのです。その時は、とつてもうれしかったです。なんたかいっしゅんのうちに、このクラスの仲間になったような気がしたからです。

でも、あまり日本語を話すことのできない私は、最初のうちは友達がいなくて一人ぼっちでした。友達に、何を話したらいいのか、どのように話したらいいのか、わからなかったからです。

少しずつ日本語を覚えていくうちに、クラスのみんなが話している言葉の意味がわかってきました。そして、クラスの何人かが私の悪口を言っているのに気づきました。

最初のうちは、あまり気にしなかったのですが、ノートなどを配るときも、私の物をい

やそうに配っているのがよくわかるようになったのです。私は、心の中でとても悲しかったのですが、笑いでごまかして過ごしていました。

そんな時、私に声をかけてくれる友達ができました。勉強を教えてくれたり、私が変な事をする時、

「それは、こうやるんだよ。」

と、とても優しくしてくれたりして、私のイライラする気持ちをいやしてくれました。でも、本当の私の心の中の悲しみを相談することはできませんでした。相談すると、クラスの友達の悪口を言うようで、何かみんなの目が気になったからです。

しかし、担任の先生が私の様子に気づいて、何人かの男の子たちを集めてくれました。「なぜ、Bちゃんの悪口を言ったりするの。」

と、先生が聞いてくれました。私は、みんなの答えを聞きたくなかったので、目を閉じ、耳をふさいでじつとしていました。そうしていると、

「ごめんさい。」

という、みんなのあやまる言葉が聞こえてきたのです。自然に目を開け、みんなの顔を見ることができました。男の子たちは、私をじつと見つめ、

「一人で考えこまないで、いやな事があったら何でも相談して。」

「今まで、なんで相談してくれなかったの。」

と、口ぐちに言ってくれました。今までの重かった教室の空気が、急に軽くなったように感じました。悲しみをカムフラージュするための笑顔が、本物の笑顔に変わったのです。

そして、日本語がわからず、自分は一人ぼっちだと思つて過ごし、自分から心を開かなかった自分自身を深く反省しました。

今、私は六年生になりました。〇組のクラスメイトと楽しく、仲良く学校生活を送っています。三年生の時の自分が、うそのように日本の生活にとけこんでいます。私に温かくせつしてくれた友達、先生方のおかげだと思っています。これからも、自分のからに閉じこもらないで、心を開いて多くの人たちとせつしていきたいと強く思っています。

(人権教育実践報告会発表作文集「はばたき」第三十四集より)